

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年11月1日
【四半期会計期間】	第10期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	株式会社アカツキ
【英訳名】	A k a t s u k i I n c .
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 塩田 元規
【本店の所在の場所】	東京都品川区上大崎二丁目13番30号
【電話番号】	03-5422-7757(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役CFO 経営企画部担当 小川 智也
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区上大崎二丁目13番30号
【電話番号】	03-5422-7757(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役CFO 経営企画部担当 小川 智也
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第9期 第2四半期 連結累計期間	第10期 第2四半期 連結累計期間	第9期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (百万円)	12,173	15,616	28,130
経常利益 (百万円)	5,241	6,002	13,502
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	3,788	3,858	7,858
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	3,804	3,940	7,861
純資産額 (百万円)	20,359	27,579	23,757
総資産額 (百万円)	31,045	40,227	37,843
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	274.03	278.06	567.67
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	260.74	264.28	539.54
自己資本比率 (%)	65.5	68.5	62.7
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,656	4,279	7,819
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,812	2,998	7,378
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	397	520	772
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	20,216	21,919	21,176

回次	第9期 第2四半期 連結会計期間	第10期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	203.07	162.85

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 「1株当たり四半期(当期)純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益」の算定上、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が保有する当社株式を「普通株式の期中平均株式数」において控除する自己株式に含めております。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用情勢の改善や個人消費の回復及び設備投資の増加を背景に景気の緩やかな回復が見受けられたものの、中国経済の減速、英国の欧州連合（EU）離脱問題や米国発の貿易摩擦問題を背景に、2019年4月以降も景気動向指数は悪化を示すなど、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが属するモバイルゲーム業界を取り巻く環境につきましては、2019年の世界のゲーム市場規模は前年比10.2%増の1,519億ドルへ成長するとともに、その中でも最も大きな割合を占めているモバイルゲームについては前年比16.6%増の820億ドルの市場規模へ成長することが見込まれており（出典：newzoo「Mobile Revenues Account for More Than 50% of the Global Games Market as It Reaches \$137.9 Billion in 2018」）、引き続きグローバルで成長し続ける業界であると考えられております。

このような環境の中、当社グループのモバイルゲーム事業につきましては、より高いクオリティとユーザー体験にこだわり、タイトルを厳選して開発・運用していく方針の下、既存タイトルの堅実な運用と新規タイトルの開発に努めてまいりました。2018年12月にリリースしました株式会社スクウェア・エニックスとの協業タイトル「ロマンシング サガ リ・ユニバース」につきましては、2019年5月に1,500万ダウンロードを突破し、ストアセールスランキング（注）で1位を獲得するなど、モバイルゲーム事業の新たな収益の柱として好調に推移いたしました。また、2019年9月にリリースしました榎坂46・日向坂46応援[公式]音楽アプリ「UNI'S ON AIR（ユニゾンエアー）」につきましては、リリース初日にストアセールスランキングで最高7位を獲得するなど、好調な滑り出しとなりました。

一方、当社グループのライブエクスペリエンス事業につきましては、リアルエンターテインメント領域への取り組みを積極的に行っており、2019年3月にオープンしました横浜駅直通の複合型体験エンターテインメントビル「アソビル」でのコンテンツ「うんこミュージアム」を横展開するなど、好調に推移いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高15,616百万円（前年同期比28.3%増）、営業利益6,065百万円（同14.4%増）、経常利益6,002百万円（同14.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益3,858百万円（同1.9%増）となっております。

なお、当社グループは、全セグメントに占める「モバイルゲーム事業」の割合が高く、開示情報としての重要性が乏しいことから、セグメントごとの記載を省略しております。

（注）ストアセールスランキング：App Store またはGoogle Playのセールスランキング

##### 財政状態の状況

##### （資産）

当第2四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末に比べて2,383百万円増加し40,227百万円となりました。主な要因として、現金及び預金の増加743百万円及び投資有価証券の増加2,716百万円があった一方で、売掛金の減少310百万円及び有形固定資産の減少450百万円によるものであります。

##### （負債）

当第2四半期連結会計期間末の負債につきましては、前連結会計年度末に比べて1,438百万円減少し12,647百万円となりました。主な要因として、納付等に伴う未払法人税等の減少855百万円、その他流動負債の減少502百万円によるものであります。

##### （純資産）

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べて3,822百万円増加し27,579百万円となりました。主な要因として、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上3,858百万円に伴う利益剰余金の増加3,719百万円、期末配当金の支払による減少139百万円によるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、前連結会計年末に比べ743百万円増加し、21,919百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、営業活動の結果得られた資金は4,279百万円となりました（前年同期は1,656百万円の収入）。これは主に、法人税等の支払額2,840百万円があった一方で、税金等調整前四半期純利益5,843百万円の計上があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、投資活動の結果支出された資金は2,998百万円となりました（前年同期は1,812百万円の支出）。これは主に、投資有価証券の取得による支出2,429百万円や子会社株式の取得による支出535百万円、有形固定資産の取得による支出739百万円が発生したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、財務活動の結果支出された資金は520百万円となりました（前年同期は397百万円の収入）。これは主に、既存の長期借入金の返済による支出300百万円、配当金の支払による支出139百万円があったことによるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針、経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発費は1,314百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	45,090,400
計	45,090,400

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月1日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	13,954,300	13,954,300	東京証券取引所 市場第一部	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	13,954,300	13,954,300	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2019年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日 (注)	39,500	13,954,300	1	2,751	1	2,750

(注)新株予約権の行使による増加であります。

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
塩田 元規	東京都港区	2,680,000	19.21
株式会社サンクピア	東京都品川区上大崎2丁目13番30号	2,200,000	15.77
香田 哲朗	東京都渋谷区	1,475,000	10.57
株式会社Owl Age	東京都品川区上大崎2丁目13番30号	1,100,000	7.88
THE BANK OF NEW YORK 133972 (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部)	RUE MONTOYERSTRAAT 46,1000 BRUSSELS,BELGIUM (東京都港区港南2丁目15番1号)	337,300	2.42
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001 (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部)	P.O.BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. (東京都港区港南2丁目15番1号)	279,647	2.00
資産管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番12号	252,600	1.81
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番11号	207,100	1.48
BBH BOSTON CUSTODIAN FOR JAPAN VALUE EQUITY CONCENTRATED FUND A SERIES OF 620135 (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部)	HARBOUR PLACE,4TH FLOOR,103 SOUTH CHURCH STREET,GEORGE TOWN GRAND CAYMAN CAYMAN ISLANDS (東京都港区港南2丁目15番1号)	195,400	1.40
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140051 (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部)	240 GREENWICH STREET,NEW YORK, NY 10286,U.S.A. (東京都港区港南2丁目15番1号)	191,000	1.37
計	-	8,918,047	63.91

(注) 上記株式数のうち、信託業務に係る株式数は以下のとおりであります。

資産管理サービス信託銀行株式会社 252,600株  
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 207,100株

(6)【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,944,000	139,440	完全議決権株式であり、 権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる 株式であります。 なお、単元株式数は100 株であります。
単元未満株式	普通株式 10,000	-	-
発行済株式総数	13,954,300	-	-
総株主の議決権	-	139,440	-

(注) 単元未満株式欄には、当社所有の自己株式3株が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アカツキ	東京都品川区上大崎二丁 目13番30号	300	-	300	0.00
計	-	300	-	300	0.00

(注) 1. 上記以外に自己名義所有の単元未満株式3株を保有しております。

2. 株式給付信託(J-ESOP)により信託口が保有する当社株式30,532株は、自己株式に含めておりません。なお、当該信託口が所有している当社株式は、四半期連結財務諸表において自己株式として表示しております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	24,276	25,019
売掛金	6,127	5,816
その他	1,582	1,301
流動資産合計	31,985	32,137
固定資産		
有形固定資産	1,671	1,221
無形固定資産		
ソフトウェア	80	122
無形固定資産合計	80	122
投資その他の資産		
投資有価証券	2,876	5,592
その他	1,253	1,223
貸倒引当金	24	69
投資その他の資産合計	4,105	6,746
固定資産合計	5,857	8,090
資産合計	37,843	40,227
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	636	1,037
1年内償還予定の社債	-	2,000
1年内返済予定の長期借入金	350	99
未払法人税等	2,868	2,012
賞与引当金	141	-
株式給付引当金	166	68
その他	2,103	1,601
流動負債合計	6,266	6,819
固定負債		
社債	5,000	3,000
長期借入金	2,808	2,758
その他	11	69
固定負債合計	7,820	5,828
負債合計	14,086	12,647
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,743	2,751
資本剰余金	2,742	2,750
利益剰余金	18,424	22,144
自己株式	171	168
株主資本合計	23,739	27,478
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3	87
為替換算調整勘定	3	13
その他の包括利益累計額合計	7	74
新株予約権	25	26
純資産合計	23,757	27,579
負債純資産合計	37,843	40,227

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位：百万円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年 9月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月30日)
売上高	12,173	15,616
売上原価	3,562	4,444
売上総利益	8,611	11,172
販売費及び一般管理費	3,310	5,106
営業利益	5,301	6,065
営業外収益		
受取利息	1	0
助成金収入	-	6
協賛金収入	-	4
その他	7	2
営業外収益合計	9	14
営業外費用		
支払利息	17	17
社債発行費	23	-
為替差損	20	7
貸倒引当金繰入額	-	45
その他	7	6
営業外費用合計	68	76
経常利益	5,241	6,002
特別利益		
事業譲渡益	30	43
投資有価証券売却益	-	682
特別利益合計	30	725
特別損失		
固定資産除却損	27	-
投資有価証券評価損	-	209
事務所移転費用	-	25
減損損失	-	650
特別損失合計	27	884
税金等調整前四半期純利益	5,243	5,843
法人税等	1,455	1,984
四半期純利益	3,788	3,858
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,788	3,858

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	3,788	3,858
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11	91
為替換算調整勘定	4	9
その他の包括利益合計	15	81
四半期包括利益	3,804	3,940
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,804	3,940
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	5,243	5,843
減価償却費	45	220
のれん償却額	77	-
事業譲渡損益(は益)	30	43
固定資産除却損	27	-
事務所移転費用	-	25
投資有価証券評価損益(は益)	-	209
投資有価証券売却損益(は益)	-	682
減損損失	-	650
受取利息及び受取配当金	1	0
支払利息	17	17
社債発行費	23	-
為替差損益(は益)	9	7
賞与引当金の増減額(は減少)	44	141
株式給付引当金の増減額(は減少)	14	98
貸倒引当金の増減額(は減少)	-	45
売上債権の増減額(は増加)	965	310
その他の資産の増減額(は増加)	281	362
仕入債務の増減額(は減少)	101	400
その他の負債の増減額(は減少)	762	220
その他	43	213
小計	4,081	7,136
利息及び配当金の受取額	1	0
利息の支払額	17	17
法人税等の支払額	2,409	2,840
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,656	4,279
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	417	739
無形固定資産の取得による支出	3	87
投資有価証券の取得による支出	525	2,429
貸付けによる支出	-	45
投資有価証券の売却による収入	-	848
子会社株式の取得による支出	855	535
その他	10	9
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,812	2,998
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	412	300
株式の発行による収入	10	16
社債の発行による収入	974	-
自己株式の取得による支出	35	102
配当金の支払額	138	139
その他	0	4
財務活動によるキャッシュ・フロー	397	520
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	17
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	236	743
現金及び現金同等物の期首残高	19,746	21,176
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	232	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,216	21,919

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
研究開発費	803百万円	1,314百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	20,316百万円	25,019百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	100	3,100
現金及び現金同等物	20,216	21,919

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月19日 定時株主総会	普通株式	138	10	2018年3月31日	2018年6月20日	利益剰余金

(注) 2018年6月19日定時株主総会決議による配当金の総額には、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が保有する当社株式に対する配当金0百万円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年11月2日 取締役会	普通株式	555	40	2018年9月30日	2018年12月10日	利益剰余金

(注) 2018年11月2日取締役会決議による配当金の総額には、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が保有する当社株式に対する配当金0百万円が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月18日 定時株主総会	普通株式	139	10	2019年3月31日	2019年6月19日	利益剰余金

(注) 2019年6月18日定時株主総会決議による配当金の総額には、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が保有する当社株式に対する配当金0百万円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、全セグメントに占める「モバイルゲーム事業」の割合が高く、開示情報としての重要性が乏しいことから、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	274円03銭	278円06銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	3,788	3,858
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	3,788	3,858
普通株式の期中平均株式数(株)	13,824,423	13,877,582
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	260円74銭	264円28銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円)	-	-
普通株式増加数(株)	704,384	723,653
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	2018年7月12日開催の取締役会決議による第8回新株予約権 新株予約権の数 44個 (普通株式 4,400株)	-

(注) 株式給付信託(J-ESOP)により信託口が保有する当社株式を、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第2四半期連結累計期間15,529株、当第2四半期連結累計期間33,975株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月1日

株式会社アカツキ  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 平山 謙二 印  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 岡野 隆樹 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アカツキの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アカツキ及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。